

自然の豊かさと心の豊かさ

小椋 汐里 福島県立盲学校 十七歳

「世界一美しい島」と呼ばれている、小説『赤毛のアン』の舞台となったカナダのプリンス・エドワード島へ去年の夏、出かけました。朝露にぬれた原っぱの空気はとても清々しかったです。

散歩の途中、色々な木や花を触ったりにおいをかいだりました。小さな花がたくさん集まってレースのような形をした、かすかに甘い匂いのするかわいらしいクイーン・アンズ・レースという花が印象に残りました。

また、リスが草むらを走ったり、木に登ったりするカサカサという音を今でもはっきり覚えています。また父が写真を撮ろうと一メートル前まで近づいたのですが、キツネは逃げようとしませんでした。動かないので、音もせず、全盲の私にはどこにいるのかわからなくてドキドキしました。

その島に住む人はみなとてもフレンドリーで温かい人たちでした。道ですれ違えば誰にでも Hello と挨拶をし、困っている人がいればすぐに手を貸してくれます。そんな心の広さは自然の豊かな島だからこそ育ったものなのではないかと感じました。花や木の匂いを嗅いだほっとするような落ち着くような気分にもなれました。自然の豊かさと心の豊かさは比例しているような気がします。これからもそんな自然を大切にしていきたいです。